

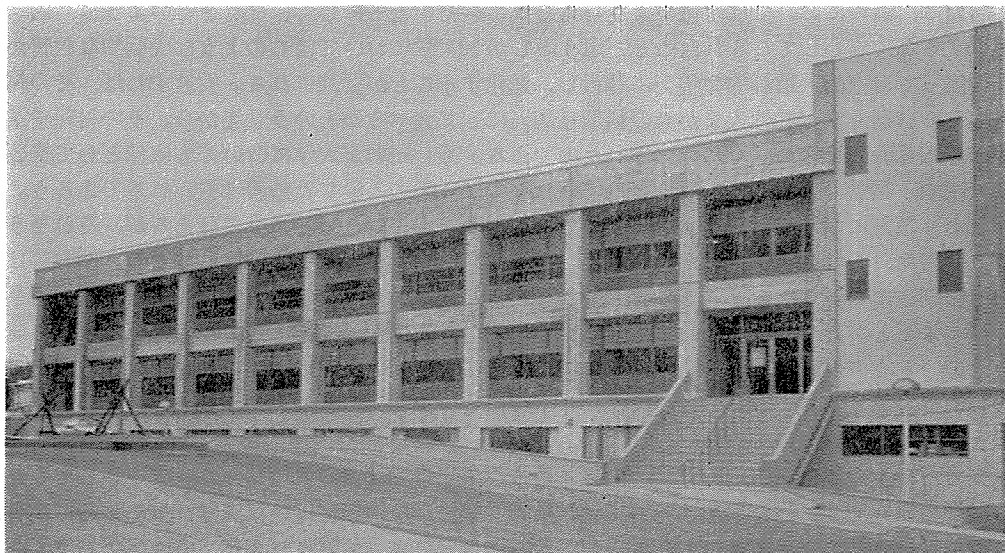
# 大阪大学図書館報

Vol. 6. No. 2. Apr. 1972

1. 新本館の竣工と新入生諸君…………… 附属図書館長
2. 貸出・返却・予約等のシステム変更(業務の機械化〔1〕)
3. 本館増築完成

## 新本館の竣工と新入生諸君 (大学教育と図書館)

関 集 三



附属図書館本館

新入生諸君、このたび難関をこえ大阪大学に入学されお目出度く存じます。新しい諸君を迎え、大阪大学では創立以来約40年、こゝにはじめて総合大学にふさわしい図書館本館が竣工、諸君の入学と同時に開かれることになりました。この本館は新入生諸君の自主的学習の最も重

要な場所、すなわち学習図書館でもあるので、この機会にその役割を諸君とともに改めて考えてみたいと思います。

いうまでもなく、大学の目的は、新しい知識を創造する研究活動と、それによって得られた成果をつたえる教育活動である。特に総合大学ではこの目的を遂行するため多くの学部、研究所又は施設、事務局、その他のサービスセンターをもっているが、全学にわたってこの教育と研究に密着して直接サービスをする唯一の機関として図書館が存在している。したがって、欧米の先進国においては、大学を造営するにあたり先づキャンパスの中心に総合的中央図書館を設け、その後、順次各学問分野別の学部、事務室、その他の学生施設等がそれを囲んでつくられ、教職員が整備されて始めて学生が募集される。すなわち図書館は大学の象徴的存在又は大学の心臓とよばれ、またしばしばそのために聖堂の感をもつ建築様式が採用された。前世紀のイギリスの文明批評家、トーマス・カーライルが“The true university of these days is a collection of books”とのべたのもこのことを物語っている。したがってその重要性を裏づけるよう館長はしばしば副学長的地位を与えられ、またその運営には別枠予算があてられた。最近に至ってもこの図書館の重要性は決して、減小したのではなく、たとえば1963年、故ケネディ大統領が議会に於てた新年教書においてのべている次の言葉「現在の我国の諸大学の傾向をみると、講義が次第に少なくなり、学生自身の自主的学習が益々多くなっている。その結果大学図書館は今までより一層、アメリカ学生生活にとって本質的な重要性をもつものとなってきている」をみてもそのことがわかるであろう。

ひるがえって我国の総合大学、特に国立大学においては若干の例外はあるとしても、中央図書館の設立は欧米とは逆に永年不完全なまゝに放置せられて今日に到っている。たとえ地理的条件があったにせよ、大阪大学もその例外ではなかったのであって、上述したように創立40年後にしてようやく設立されたといっても過言ではない。

諸君は、高校においては、教師より与えられた教材をもとにして、それをどのように有効に咀嚼するか専心してこられたことと思う。しかし大学においてはこのような受動的な教育から脱皮して自主的、積極的な学習に移行し、進化することが要請される。換言すれば、その材料もその調理もすべて他人まかせの料理を如何にして食べるかという立場から、その材料や調理法を知らねばならぬ立場に立たされたのである。もし諸君が大学においても依然として講義の暗記や、試験の合格のみを目標としていたならば大学に入学した意義は失われるであろう。もとより教室における講義は大学においても、もつとも重要な教育活動ではあるが、それをうける諸君は、もはやたゞ単に出席するだけでは本来の目的から大きくはなれてくる。諸君等は自分の判断にもとづきカリキュラムを撰択し、自分自身のための学習、すなわち自主的学習を体得することが要求される。教室の受講における自主的学習態度があつて始めて、学習から研究へのいとぐちが開かれる。諸君は研究的に受講しなければ大学の学生とはいえないのである。このような見地から大学における講義は「学生が自分で発見できるものはそれを教えない」ものとなってきているのである。

さて、以上の学習の自由と表裏の関係にある自主的学習は、教室における講義を通じてうける教師の研究態度、注意事項、参考意見、参考文献提示、宿題、或いは実験、ゼミナー、演習、レポート報告等のさまざまな形態を通して次第に自分自身で体得されるが、いずれにしてもそこには、常に問題を自ら解決しようという意欲が働かねばならない。もし諸君がその意欲をもって図書館に入られるならば、それに応えるさまざまな施設を有効に利用できるに違いない。主題別に見事に配列され、自ら手にとってみることの出来る開架図書や雑誌、それをもとにして問題解決をして行く時にさらに生ずる新しい疑問、その疑問を解決するための参考係員との

相談、或いは諸君が得た知識を更に一層定量化した確実なものとするためには参考図書コーナーが諸君の利用を待っているであろう。

このようにして日常、図書館になれ親しむことにより、あたかも宝の山にわけ入るような気持ちで、時には必要にせまられ、時には知的欲望をいやしてくつろぐためブラウジング・コーナーを利用するならば、これらの憶出は諸君にとって生涯忘れ得ないものとなる。図書館では、以上の他、視聴覚資料室で映画や音楽資料が諸君を待っているのです、それらを利用してより広く深い人間性を高めることに役立つであろう。

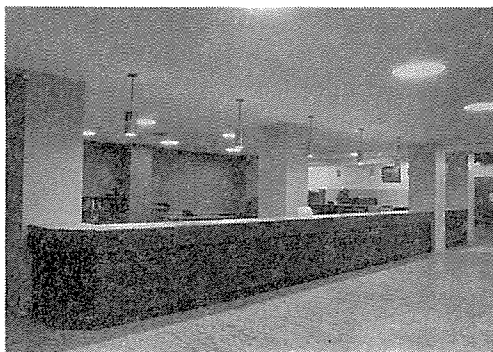
大阪大学の新本館は本年竣工の故を以ていくつかの特長をもっていることを最後に付け加えておきたい。閲覧室はもとよりエレベーターのある研究閲覧書庫をふくめ、全館が冷暖房の空気調節され快適な読書が行われまた文献検索ができる。書物の借出、返却その他の業務が全国にさきがけて電算機により機械化されサービスの向上めざしている。或いは適当な指定図書や参考図書を囲んでのグループでの読書小室も利用できる。このような諸設備を充分活用され自主的な学習を図書館内利用を通じて体得していただきたい。そのような諸君の態度は必ずや図書館の改善、或いは教室での講義内容の進歩にも反映されるものと信じる。そして、学生・教師・図書館専門職員の三者の協力の姿はそれこそ大学にとってふさわしい風景となることを期待している。

(附属図書館長)

## 貸出・返却・予約等のシステム変更(業務の機械化〔1〕)

昨年来、図書館業務のシステム完成に努力してきたが、本年1月に電算機(FACOM230-15)を設置し、4月上旬から本格的稼働を開始することになった。

電算機の適用業務の主なもの、①インラインによる貸出・返却・予約・督促等 ②図書の受入・発注・支払 ③各種リストの作成 ④学術雑誌の受入管理 ⑤各種統計であるが、もともと利用者に関係のある①について本号で説明し、②以降は次号以降に順次紹介する。



1階カウンター



端末装置

### 閲覧証の交付

本館で図書利用をする方は、次頁の利用登録カードに所要事項を記入の上、1階カウンターに提出してください。すでに登録済みの利用者は必要がありません。

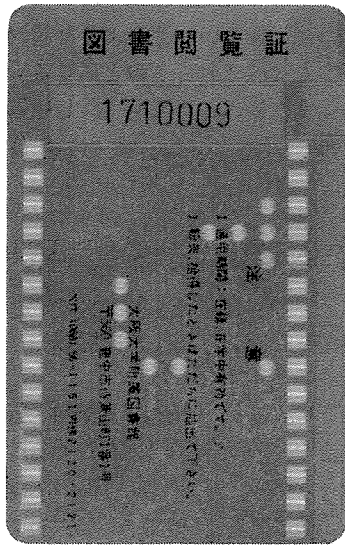
ただちに利用登録カードを確認し、図書閲覧証を交付します。すでに登録済みの利用者は旧貸出券と引換えに図書閲覧証を交付します。

この図書閲覧証は電算機による貸出・予約等の入力用として使用するもので、①所属学部、②入学年、③身分、④一連番号をパンチしたABS樹脂製のカードです。これは学生は在学中、院生は研究科在学中、教職員は在職中有効ですから取扱いに注意してください。

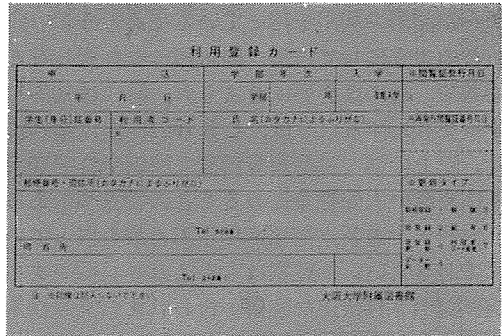
なお、住所等の変更があった場合は、図書閲覧証を持参して1階カウンターで変更手続をしてください。また、図書閲覧証を紛失した場合は、至急カウンターまで届け出て下さい。

2. <図書閲覧証>

届け出より1週間後に再発行しますが、旧閲覧証が出てきたときは、旧閲覧証を1階カウンターに返却して下さい。紛失してから届け出までの間に、事故が生じた場合は、登録者が責任を負うことになります。



1. <利用登録カード>



1710009

部局コード (経済)

入学年次 (1971 西紀下1桁)

身分コード (学生)

一連番号

3. <ブックカード>

いずれの場合もただちにカウンター備え付けの筆記具(油性インク)で事故防止のため氏名を裏面に記入して下さい。

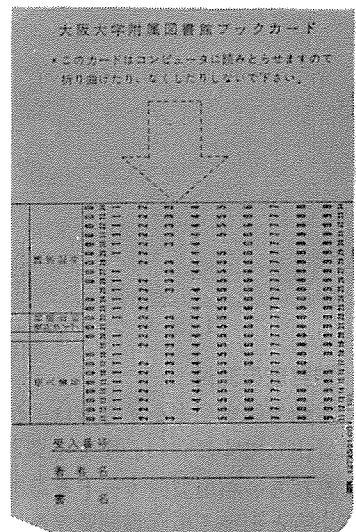
貸出

図書を借りるときは、書架から図書をとりだし図書閲覧証を添えて1階カウンターに提出して下さい。

職員は、カウンターの端末装置に図書閲覧証とブックカードをセットし、個人別の貸出データを地階の情報管理室に設置されている電算機の磁気ディスクパックに記憶させます。

つぎに、ブックカードとデートスリップ(返却日付を捺印したカード)とをブックポケットに入れその図書と閲覧証を利用者に返して、貸出手続が完了します。

なお、機械化による貸出・返却・予約は、さしあたり開架図書のみですが、書庫内にある研究用図書、経済学部図書および教養図書の一部は、順次実施するようブックカードのバ



ンチ作業を進めています。したがって当分の間パンチされたブックカードのない図書については図書貸出票を使用して貸出を行ないます。

**返 却**

1階カウンターに図書を返却してください。閉館しているときは、東西の玄関に設置されているブックポストに投入してください。

職員は図書のブックカードのデータを端末装置から返却の信号を送信し、返却手続を完了します。

ブックカードを破損したり、紛失したりしないよう注意して下さい。

**予 約**

利用したい図書が貸出中であるときは、予約することができます。

図書貸出予約票に必要事項を記入し、1階カウンター職員に提出して下さい。予約したい図書の受入番号(例:70CL00386)は、著者、書名、分類目録のいずれでも調べられます。目録カードの左側中央に記載されています。

端末装置から貸出記録に問い合わせ、利用者と返却期限がただちに判明しますので、予約した図書が返却されると、予約票を掲示板にはり出します。予約者はその予約票をもって1階カウンターへおいで下さい。図書は返却期限後1週間1階カウンターで預っています。

**4. <図書貸出予約票>**

	予約図書名
受入番号	
70CL00386	
<u>図書貸出予約票</u>	
_____学部_____学年	
閲覧証番号 1710009	
氏名 _____	
研究室名 _____	
TEL(内線) _____	

**貸出種類, 期間, 冊数一覧**

種 類	冊 数	期 間	罰 則
1) 単行本	1)~3)合算 3冊以内	1) ~ 3) とも	1回目の返却督促状(電算機により自動的に作成)を発送しても返却されない場合は2回目以降の督促状発送と同時に次の期間貸出停止になります。  2回目 4週間 3回目 8週間  以下、回を重ねるごとに貸出停止期間は倍々計算で加算されます。
2) 指定図書		2週間以内	
3) 製本雑誌			
4) 未製本雑誌	1冊	オーバーナイト 閉館2時間前より翌日開館1時間以内	返却期限を超過すると以後の貸出を停止します。
5) レコード	1ジャケット	2日以内	

注) 経済学部大学院生の貸出冊数は別に定める。

## 本館増築完成

今回の増築部分(4,914㎡)は既設部分の南側、基礎工学部の西側に建てられ、閲覧事務棟は地上2階地下1階、書庫棟は既設書庫(2層)の上に4層を積み上げ、既設部分(3,094㎡)と合算すると延べ面積約8,000㎡の施設となった。既設部分についても、増築部分と有機的な、一体的な機能を持たせるため、本年度に大規模な改修を行なう。

これらの工事完成により、座席数は現在の約500席から約1,200席に、蔵書収容冊数は現在の約23万冊から約57万冊にそれぞれ増加し、これに理学部、基礎工学部内の既設分を加えると、座席数については、石橋地区在籍の学生の14%、教官、大学院学生の27%をそれぞれ確保し、蔵書収容冊数は昭和52年度までの増加にたえうるものとなった。

学生の自主的学習を促進するためには、自学自習の場として、附属図書館の積極的利用を図らねばならないが、この方針に従って、可能なかぎり、開架閲覧方式を拡充し、約7万冊を一般開架閲覧室、指定図書室、参考図書室に配架する。また47年度改修でグループの学習の場として4室のグループ室の設置、従来の視聴覚室の拡充、さらに語学練習室(L.L)の新設等、勉学に快適な条件を整備しようとしている。

研究者(教官および大学院学生)に対しては、書庫棟に4層の研究閲覧スペース(書庫の構造)を設け、エレベーターを新設し、各層には、多数のキャレル、3・5層には個室各6室、4・6層には閲覧コーナーを設置して、研究者が図書・資料を研究室に持ち帰らずとも自由に研究できるようになっている。

また、快適な環境を確保するために、冷暖房を行なう。

なお、「図書館業務の迅速化、合理化と学術情報流通組織の基盤づくり」を目的とした、小型電子計算機(FACOM230-15)の導入が行なわれ、地階事務室に情報管理室を設けている。

全館の概略の平面図は次頁のとおりである。

### 出入口

現在使われている西玄関と新たに増築される建物の基礎工学部に面した東玄関、それに職員の専用出入口として生協食堂に面した所に設けられる。

### ロッカー室

ロッカー室は旧館および新館の出入口のすぐそばに設けられ、旧館側に約370人分、新館側に約250人分が置かれている。

### 新聞閲覧室

旧館玄関わきの一角を新聞閲覧室とし、また新聞を読む以外にも休息コーナーとして利用できる。

### カウンター

旧館・新館の接合部にわたる図書館のほぼ中央部1・2階にあり、1階は貸出等のカウンターで、2階は参考図書室と結びついた参考業務のカウンターである。またそれぞれ閲覧課の掛もカウンター内部に配置されている。

### 閲覧室

閲覧室は旧館1～3階、新館1・2階に計5室で約2,200㎡、座席数約800席である。これらの閲覧室はそれぞれ用途別に分ける。すなわち旧館1階：指定図書室、2階：参考図書室で

約16,000冊収容, 3階:第2自由閲覧室, 新館1階:一般開架図書室で収容図書冊数30,000冊, 座席数約150席, 2階:第1自由閲覧室で約250席ある。

**グループ研究室**

旧館2階の西側に面し休息コーナーをへだてて各2室設ける。この部屋は学生がグループ学習に使いやすいようそれぞれの話声が聞こえないよう配慮し, 使用もあいておれば自由に使えるよう開放する。完成は本年10月頃の予定。

**個室**

机と机の仕切りを高くし, 全く静かに勉強したい学生のために旧館2階(現在の小閲覧室)に28席ある。参考図書室より出入り参考図書を持ち込むこともできる。

**視聴覚室**

視聴覚室は現在の広さに約18㎡の準備室をつけるが機能, および収容人員もほぼ現状と変わらない。

**L.L室**

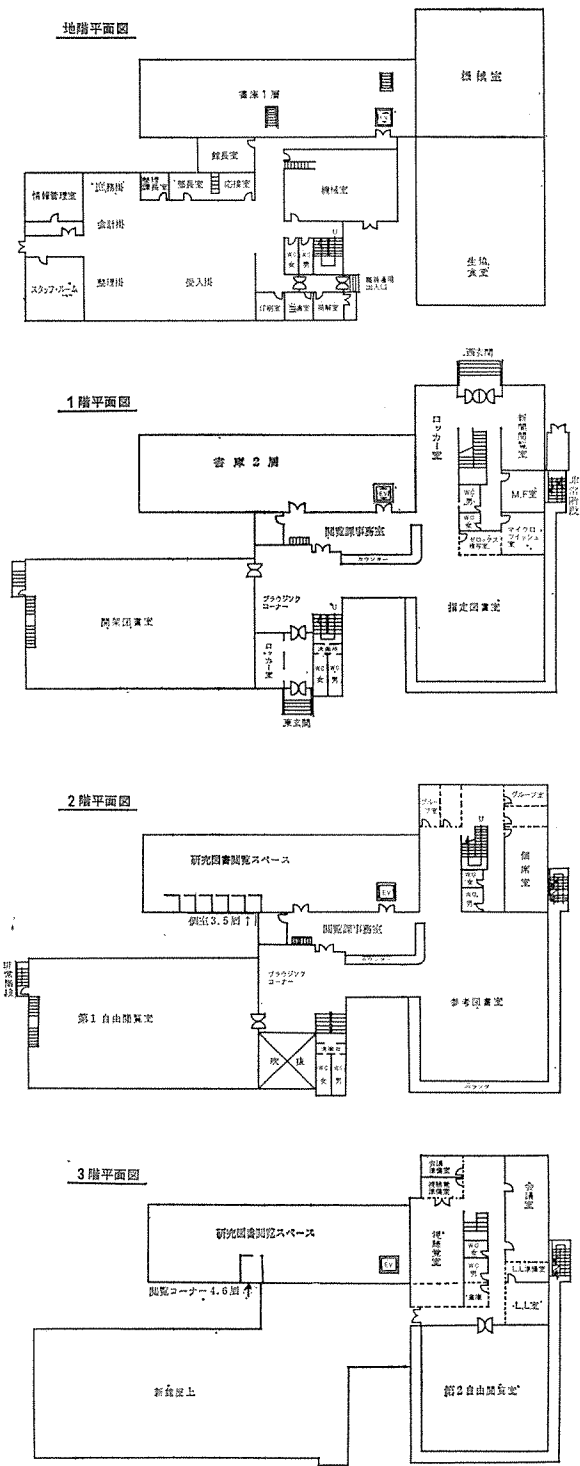
旧館3階の北側に面積36㎡, 座席数18のものを作る予定である。完成は本年10月頃の予定。

**複写室**

マイクロ・フィルム撮影室は現状通りであるが, 新たに昨年1月より稼動している, マイクロ・フィッシュ撮影室はその隣りに, ゼロックス複写機も隣の1室に置き一連の複写を一体化する。また申込から撮影, 受領までスムーズに動くようカウンターもすぐそばに位置している。

**M・Fリーダー室**

2階参考掛事務室南側に約20㎡の部



※……は10月完成予定

屋を設け、リーダーも2台据付けており掛員の許可を受ければ使用できる。

#### 研究図書閲覧スペース（書庫的構造）

研究図書閲覧スペースは既設書庫棟2層に4層積みあげ、3、5層にはそれぞれ6室の個室を、4、6層には8名収容できる閲覧コーナーを設けている。これら各室、コーナーにはスチールパネルで仕切り、空調も完備されており快適な条件で閲覧できるような十分な配慮がなされている。また4～6層の壁面をフルに活用し個々に照明灯をつけた計96のキャレルを設置する。そのほか懐徳堂文庫等貴重図書を収容する貴重図書コーナーを6層に設け、出入口は1、2階の閲覧課事務室の出入口より出入りする。

#### 事務部

館長室から当直室にいたる図書館の管理部門は殆んど地階に集められている。閲覧課事務室は1階に閲覧課長室および閲覧掛、2階に参考掛がある。

## 機械化ワーキング・グループ

第19回 47.2.10（木）

報告 門田から、受入、雑誌管理、閲覧各業務の進捗状況について報告、質疑をした。

#### 問題点

##### 1. 人間科学部（仮称）の発足にともなうコード

予算コード：HU 建制コード：09とし、予算コード3桁目は系毎にまとめる原案を了承。溶接研については初年度の機械化に関係がないので予算コード：WIのみを決定

##### 2. 受入業務関係システム変更点

- a. 資料タイプコード「8」を学位論文に充てる。
- b. 製本命令書の打出しの半自動化を図るが、製本準備作業を学部資料室で行っている文法、経済については、資料室との折衝が必要であり、その結果によっては機械化から外し、2本建になることもある。

##### 3. 目録掛で分類作業をしていなかったものの取扱い

すべての資料に主題コードを付けなければ貸出および統計の機械化が困難なので、主題コード欄には、

- a. 雑誌は数字3桁（05+主題コード1桁）を入れる。
- b. 文庫本などの別置図書は「098」を入れる。

## 業務機械化中間報告 出る

いよいよ4月からスタートする本館の機械化システム設計については、本紙上で、去る46年1月（Vol. 5, No.1）以来、逐次掲載してきたが、このたび、「大阪大学附属図書館業務機械化システム概要（中間報告）」を刊行した。これはA4判、187頁からなり、第1部は解説と



まとめ、第2部は、システムの詳細について説明している。しかし、これはあくまでも中間報告であり、印刷部数も少ないので、学内向きには、各部局・分館に1部ずつ送付している。本格的に稼動した段階で、改めて報告書を作成する予定である。

## 沖繩タイムス購読

沖繩現地の新聞を図書館においてほしいとの希望があり、2月3日の選択委員会で承認されたので、3月1日号から購読することになった。

### 学生希望図書一本館一

- |  |  |
|--|--|
| 新訂西洋紀聞 (東洋文庫 113) 新井白石<br>平凡社                        | 飯沢匡喜劇集 1-6 未来社                             |
| 西洋紀聞 (岩波文庫) 新井白石 岩波書店                                | 西脇順三郎全集 第6巻 筑摩書房                           |
| 田中美知太郎全集 第4,5巻 筑摩書房                                  | 荷風全集 第12巻 岩波書店                             |
| 福沢諭吉全集 別巻 岩波書店                                       | 異常心理学講座 全10巻 みすず書房                         |
| 内藤湖南全集 第4巻   | 濟州島 泉 靖一 東京大学出版会                           |
| 価格理論 II (現代経済学2) 今井賢一 他<br>岩波書店                      | 随唐帝国形成史論 谷川道雄 筑摩書房                         |
| 模範六法 昭和46年版 三省堂                                      | 朝鮮文学史 金思燁 北望社                              |
| スキー上達法 3冊 広嶋英雄 創元社                                   | 今日の演奏と演奏家 吉田秀和 音楽之友社                       |
| スキー10日間 3冊 広嶋英雄 創元社                                  | 王国 奈良原一高 中央公論社                             |
| 虚無の靈光 石川三四郎 三一書房                                     | 表裏源内蛙合戦 井上ひさし 新潮社                          |
| 遠ざかった明日 芹沢光治郎 新潮社                                    | 世界IC規格回路ハンドブック<br>原 留美吉 編 誠文堂新光社           |
| 生命のしくみ (生命と科学2) 赤堀四郎 他<br>共立出版                       | フルバキ数学原論 (可換代数4)<br>木下素夫 他 東京図書            |
| アインシュタインとその思想 (アインシュタ<br>イン選集第3巻) 2冊 湯川秀樹 監修<br>共立出版 | 群と位相 (基礎数学選書5) 横田一郎<br>裳華房                 |
| 場の量子論の数学的方法 ボゴリューボフ<br>江沢 洋 他 東京図書                   | 原子物理科学 (基礎物理科学シリーズ4)<br>八木浩輔 朝倉書店          |
|  | 生と死/性の心理学/精神分析入門/からだ<br>の知恵 (世界教養全集33) 平凡社 |

### 教官著作寄贈図書

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 一吹田分館一               | 一薬学部分館一             |
| 西田俊夫 (工・教授)          | 岩田平太郎 (薬・教授)        |
| 待ち行列の理論と応用 昭.46 朝倉書店 | 薬物の分子作用機構 昭.47 地人書館 |

## 本館受入参考図書

2・3月に受入済みのもの  
 図書総目録 第8巻 ら～ん 岩波書店  
 出版事典 岡田 温 他編 出版ニュース社  
 辞典・事典総合目録 '69 出版ニュース社  
 東京都立日比谷図書館蔵 特別買上文庫目録  
 一諸家・漢籍一 都立日比谷図書館  
 日本情報産業年鑑 一1972年版一  
 情報産業新聞社  
 学会会員氏名録 昭和46・47年用  
 日本学士会  
 文化人名録(著作権台帳) 第15版上  
 日本著作権協議会  
 大日本地名辞書 第1巻:汎論・索引  
 吉田東伍編 富山房  
 京阪神市街地図集 47 大阪人文社  
 私学行財政総覧 1971年度 私学調査振興会  
 兵庫県同和教育関係資料目録 一その2一

兵庫県立教育研究所  
 Dictionary of Scientific Biography vol. 4  
 ed. by C. C. Gillispie  
 Charles Scribner's Sons.  
 丸善対数表一7桁一 丸善出版  
 日本医籍録:東日本版・西日本版  
 医学公論社  
 J I Sハンドブック一電気一 日本規格協会  
 自動車ガイドブック 1971-72年版(第18巻)  
 金属便覧 改訂3版 日本金属学会  
 全国美術館ガイド(改訂) 美術出版社  
 Grimm's Deutsche Wörterbuch  
 Bd 1~4/1/1 (A~Ge-) von J. Grimm  
 u. W. Grimm. S. Hirzel  
 コンサイス仏和辞典(新版) 丸山順太郎 他編  
 三省堂  
 全国官公界名鑑 1972年度 日本官界情報社

## 参考業務の一年

清水 巖

ひときわ長かった冬も終わり、ちらほらキャンパスの桜が咲き始める昨年の4月1日に、中央図書館のカウンターの傍の読書相談デスクに座るようになってから春夏秋冬、再び春の足音も近くに聞こえる頃となり、私のこの仕事もあと二ヶ月を残すだけとなった。ところで、私が図書館で参考業務の一端を担当していると言うと、「そんなものがあつたのか」という返事が帰ってくる事が多く、この業務の存在は学生間では今だよく知られていないように思われる。自己紹介すると、私の任務は、中央図書館で夜5時から7時までの間、利用案内・読書相談・書誌的調査等に関する質問を受け解答することである。私たち大学院生が自然科学・人文社会科学を3名で担当し、一週間のうち2日ずつを交代でやっている。(勿論、読書相談やそれ以外の参考業務は、図書館職員の方が常時行なっておられ、私たちはそれを補佐しているわけである)。私は人文社会科学担当である。

ところで、これまでの質問をふり返ってみると、中には、「台湾とアメリカ合衆国との政治的關係についての参考文献」、「市場調査と販売戦略との関連についての資料」など一瞬解答に窮し調査を要するものもあつたが、一般的には文献の所在・有無等の利用案内に関するものが多かった。女子学生の方で、おずおずと「あまり学問的な質問ではないのですが」と断わった上で「ソ連邦の雄大な風景写真が掲載されている書籍」はないかと尋ねた方があつた。人文社会科学担当などと書いた札をデスクの上に置き、むつかしい顔で控えているけれども、別に

「学問的な質問」でなければ受付けないというわけではなく、読書相談に関するものは何でも受付けているので、もっと気軽に利用していただきたいものである。「学問的な質問」も勿論受付けているが、正直なところ、私たちも自分の専門分野を除いて、回答することは一調査の過程は楽しくもあるが一なかなか骨の折れる仕事である。また教養一年生の人が、教養時代の勉強方法について二度ばかり質問にこられた。十分満足のできる回答ができたかどうか……。しかし参考担当としては極めて光栄な質問であった。

ある主題についての適当な参考図書やさらに専門的な文献の有無・所在の調査方法などは、私の経験によれば、何か一つの方法がわかると、あとは芋づる式に次々と道が開かれてくるものである。研究・勉学上の、あるいは文化サークル活動などにおける成果も、これらの情報収集能力によって大きな差が表われてくる。また今日のような情報化社会においては、文献検索に有益な参考図書類も続々と出版され、中央図書館にも備えられるようになってきているので、多数の人に利用されずに眠るのはもったいないことである。私自身も、参考業務の一端を担当するようになって、研究上いろいろと有益な情報を得ることができた。この意味でも、気軽に相談にこられれば何か得るところがあるのではなからうか。

私は図書館を一つの生活の場といえるほどによく利用した方であった。教養・学部・大学院生の八年間、授業のない日など朝9時から閉館まで図書館で過ごすことが多かった。しかし、私が教養生の頃は、図書館は食堂の上の一階だけであり、利用できる図書数も極めて僅で高校の図書室程度であった。また参考図書室は非公開で、私はよく係の人に頼んで特別に入れてもらって利用したものであった。その後、二階三階と増築され、開架図書も充実し、また冷房も入って、夏のうだるような暑い日にシャツ一枚でフーフーいいながら本を読んだことも昔話となった。さらに本年四月には現在の増築工事も完成し、名実ともに中央図書館としての機能を發揮できるようになって行こう。参考図書閲覧室もでき、参考専用のカウンターもできるそうである。私のような図書館派？にとって、図書館がこのように充実してゆくのを見ることは実にうれしいことであり、また初めからこれらを利用できる人々がうらやましいかぎりである。大いに利用してほしい。

(法学部：大学院博士課程2年)

## 会 議

### ——開架図書選択委員会—第3回——

47.2.3(木) 10:30~12:00 於 本館応接室

- ①予算残115万円で、今後の学生希望図書などのため20万円を留保し、95万円を選択する。  
 ②タイム・ライフ社の The Story of Great Music (クラシックレコード全44枚) を購入する。  
 ③坂本中之島分館長推せんの医学関係書7冊を購入する。  
 ④今回選択976千円(図書524冊、雑誌1点 レコード44枚)で、予算不足額26千円は留保財源から支出する。

## 日 程

1月28日(金) 第2回日米大学図書館会議 第2回実行委員会 (東京大学附属図書館)

- 2月14日（月） 国立大学図書館協議会 常務理事会および第8回「新しい大学図書館像」特別委員会（京都大学附属図書館）
- 2月18日（金） 第2回日米大学図書館会議 第3回実行委員会（東京大学附属図書館）
- 3月10日（金） 第2回日米大学図書館会議 第4回実行委員会（東京大学附属図書館）

.....

人 事

.....

来 訪 者

- 3月10日（金） 日本ユネスコ国内委員会主催「アジア地域ドキュメンテーション技術研修」参加者等 12名

編集スタッフ 編集兼発行人 中野六郎 委員 田保橋 彬(長) 岩井、勇 松浦 正  
 榎田順治 津田恭司 山下 進 泉 文雄  
 レポーター 徳村泰弘 田中久文 町井照子 小山靖裕 篠田恭子 河崎戎三

大阪大学図書館報 Vol.6 No.2 通巻27号 昭和47年4月1日(隔月刊) 編集発行人 中野六郎  
 発行所 大阪大学附属図書館 豊中市待兼山町1の1(☎560) 豊中 068 (56) 1151 内線 2138